

【親鸞（中学）部門・奨励賞】

宝もの

大谷中学校 第1学年 栗本 蒼大

僕には二歳離れた弟がいます。弟は喋れません。気に食わないことがあると手を噛んで暴れます。その時は誰も止められません。僕もよく噛まれます。家は常に弟を中心に回っています。僕はそれがすごく嫌な時もあります。外で暴れた時は、周りの目が気になってしょうがないです。憎らしくてたまらない弟ですが、ぼくが、ご飯を食べているときに急に絵を見せてきたので、「これすごいじゃん」とほめると、めっちゃめっちゃかわいい顔をしてきて、僕の心がキュンとなります。ぼくがかき氷を食べている時にそばに来て無言の圧力をかけてかき氷を欲します。あげるとうれしそうに持って食てる姿が愛おしいです。言わされていると分かってるものの、すごくうれしくなっています。そのあと「にーに。ありがと！」と言ってきます。僕はこれをツンデレというものかと思います。弟と暮らしていると大変な事が多いですが、ふとした時のかわいさにやられてしまいます。そんな弟がぼくの宝ものです。弟がいなかったらなと思う時もあります。でも弟がいない栗本家は栗本家ではありません。弟がいてこそその栗本家なんだと思います。ぼくはこれからも大事な家族という宝ものを守っていきます。